

# 国文学研究資料館報

第50号

平成10年3月

## シンポジウム

### コンピュータ国文学について

データベース室長 中村康夫

国文学研究資料館の基幹業務である古典籍の調査と収集は、十年一日のごとき観を呈しながら、今日も脈脈と続けられている。基幹業務とはそういうものであるといつても、自然科学系の研究者には理解しにくいことであろう。

国家の大計がそこそこと変化してもらっても困ることは間違いないところであつて、方法の変更等があると、過去の蓄積を無に帰する可能性があるのです。簡単に変更とはいかないわけである。けれども、この業務が科学技術の発展とともに進む部分を持ち始めると、国家の大計といえども大きい変化を予定せざるを得なくなってくる。

コンピュータ科学は、そういう

意味では、あらゆる分野に播きぶりをかけた。可能性としては、国文学研究の全体を拡張・多様化する可能性も持つている。

シンポジウム・コンピュータ国文学は、その可能性を否定しないところから始まっていると私は思っている。その可能性を見出し、信じるところまではいつていないのだけれども、とりあえず小手先のレベルではいろいろな工夫が可能というところが見えてきている。これをまず個人の研究レベルではどこまで評価して利用していけるか。

シンポジウムのメニューの一つ一つはそのあたりからの具体的な報告が並んでいる。いずれ、近い将来、館の業務を語る報告も出て

シンポジウム コンピュータ国文学について 中村康夫	1
大学院生の受入れについて	2
平成10年度共同研究	3
平成9年度共同研究 追加	3
夏季大学院セミナー受講生募集	3
新収資料紹介	4

新収和古書抄 平成九年	5
録報	6
文庫紹介	7
第21回国際日本文学研究会報告	8
「七ミナ」原典を読む「影印叢書」	8
利用者へのお知らせ	9
平成10年度春号	10

くるであろう。

こういう新しい取り組みは、各論だけを眺めていては展望は開けない。必ず総合的なもの言いをする場がないと、問題点がつかみ切れぬ。つまり、個々の取り組みは、進展するとかならず予想していなかった問題点(権利関係や他の専門分野との抵触など)が出てきたりするものである。

平成九年度に開催した第3回シンポジウムでは「電子化テキストの出版と流通をめぐって」というテーマでパネルディスカッションを行った。こういう問題は、個人のレベルではなかなか見えてこないし、個人の作業ではこういう問題が見えてくるほどの研究の蓄積がなかなかできない。

かくして、さまざまな期待と問題意識が錯綜してシンポジウムが進行することになる。今回の参加者数は、館外だけを数えて一〇九名。昨年よりも国文学研究者の割

合が増えたように感じられた。今後、多数の参加をお待ちしている。プログラムは以下の通りであった。

#### 第3回 シンポジウム

コンピュータ国文学

テーマ 電子化テキスト展望

——出版と流通を巡って——

日時 平成9年12月5日(金)

場所 国文学研究資料館大会議室

プログラム

挨拶

国文学研究資料館 松野陽一

基調講演「歌書データベースの可

能性」

講演「日本女子大学 後藤祥子

講演「説話データベース化につい

ての課題と展望」

大阪大学 荒木 浩

講演「明治前期小新聞の語彙に関

する数量的分析」

北海道東海大学 土屋礼子

講演「国文学とインターネット」

国文学研究資料館 丸山勝巳

講演「WWWによるマイクローフイ

ルム画像検索システムと国

文学データベース」

大阪市立大学 柴山 守

パネルディスカッション

電子化テキスト展望

——出版と流通を巡って——

パネリスト

岩波書店 宮内久男

共立女子大学 内田保廣

文化庁 片山純一

閉会の挨拶

国文学研究資料館 立川美彦



# 大学院生の受入れについて

国文学研究資料館では、当館での研究指導を希望する大学院生を、特別共同利用研究員として受入れます。

当館では昭和五四年度から大学院生の受け入れを行ってきましたが、平成十年度よりこの制度を廃展させ、ひろく全国より国文学・史学およびそれに関連する分野を専攻する大学院生の参加を募ることになりました。

概要は左のとおりです。

詳細については、三月中旬に各大学院へ送付した応募案内をご覧ください。または、当館庶務課共同利用係（電話〇三―三七八五―七―三一内線二一〇・二一一）に直接「大学院学生受入要領」を御請求ください。

## 概要

受入人数 十人程度

受入対象 大学院に在学し、国文学、史学およびこれらに関連する分野を専攻するもの。

授業料 無料

提出書類 ・所属する大学院の研

究科長の委託書

・指導教員の推薦書

・在学証明書・成績証明書

略歴、研究業績

受入決定 当館大学院教育協力委員会において審査のうえ決定し、その結果を所属する大学院の研究科長および本人に通知する。

研究課題・指導教官（予定）

・平安私家集・私撰集の研究 新藤協三

・コンピュータを使った古典研究 中村康夫

・中古・中世の和歌文学の研究 浅田 徹

・連歌文学の研究 立川美彦

・和歌文学の文化史的研究 松村雄二

・中世学問史研究 山崎 誠

・中世文学の研究、特に能に関する研究 落合博志

・中世歌人とその周辺に関する研究 田淵句美子

・江戸期版本の特質の研究

・「奥の細道」本文校訂の試み 岡 雅彦

・近世学芸史の研究、特に和学に関する研究 上野洋三

・若衆歌舞伎・野郎歌舞伎の研究 鈴木 淳

・草双紙における芸能受容の研究 武井協三

・近代文学の研究 山下則子

・十八世紀後半から明治期にいたる漢文学・学芸史 谷川惠一

・コンピュータ国文学の研究 ロバート・キャンベル

・近世史料の研究 高木俊輔

・近代史料の研究 鈴木英一

・近代民間史料の研究 丑木幸男

・近世史料学の研究 山田哲好

・幕府・藩の組織構造と文書群の史料学的研究 大友一雄

・記録史料学の研究 安藤正人

・近世都市史の研究 渡辺浩一

・史料管理学の研究 高木俊輔

・鈴江英一・丑木幸男・安藤正人・山田哲好・大友一雄・渡辺浩一

・安永尚志・丸山勝巳・原正一郎

・安永尚志・丸山勝巳・原正一郎

・安永尚志・丸山勝巳・原正一郎

・安永尚志・丸山勝巳・原正一郎

・安永尚志・丸山勝巳・原正一郎

・安永尚志・丸山勝巳・原正一郎

・安永尚志・丸山勝巳・原正一郎

・安永尚志・丸山勝巳・原正一郎

・安永尚志・丸山勝巳・原正一郎

・安永尚志・丸山勝巳・原正一郎

・安永尚志・丸山勝巳・原正一郎

・安永尚志・丸山勝巳・原正一郎

・安永尚志・丸山勝巳・原正一郎

・安永尚志・丸山勝巳・原正一郎

・安永尚志・丸山勝巳・原正一郎

・安永尚志・丸山勝巳・原正一郎

### 平成10年度共同研究

中世文学作品と仏教との関係に関する学際的研究―「説経師さんせう太夫」を素材として―

松尾 剛次(山形大学教授)

末木文美士(東京大学教授)

吉村 均(財)東方研究会

米井 輝圭(文化庁専門職員)

中野真麻理(国文学研究資料館助手)

うつほ物語の注釈史の基礎的研究

室城 秀之(白百合女子大学教授)

稲員 直子(日本女子大学大学院生)

上原 作和(跡見学園女子大学講師)

大井田晴彦(東京大学大学院生)

佐藤 信一(白百合女子大学講師)

正道寺康子

(洗足学園魚津短期大学講師)

中山 陽子(恵泉女学園短期大学講師)

宮谷 聡美(白梅学園短期大学講師)

江戸 英雄(国文学研究資料館助手)

東大寺図書館所蔵「法勝寺御八講答記」の注釈的研究

永村 真(日本女子大学教授)

楠 淳澄(龍谷短期大学助教授)

藤丸 要(龍谷大学講師)

林 文子(東京女子大学助手)

蓑輪 顕量(愛知学院大学助教授)

曾根 原理(東北大学助手)  
海老名 尚(北海道教育大学助教授)  
山崎 誠(国文学研究資料館教授)

浅井了意全集作成のための基礎的研究

江本 裕(大妻女子大学教授)

花田富二夫(大妻女子短期大学教授)

富士 昭雄(駒沢大学教授)

渡辺 守邦(実践女子大学教授)

和田 恭幸(国文学研究資料館助手)

入口 敦志(国文学研究資料館助手)

### 平成9年度共同研究・追加

中世・近世説話にみる僧・俗像の研究  
ロクタモンド・ハルトムート

(国文学研究資料館客員教授)

山田 昭全(大正大学教授)

堤 邦彦(京都精華大学教授)

富士 昭雄(駒沢大学教授)

後小路 薫(別府大学助教授)

広田 哲通(大阪女子大学教授)

岡 雅彦(国文学研究資料館教授)

浅田 徹(国文学研究資料館助教授)

近世の農民・自然・年貢制度の研究  
フィリップ・ブラウン

(国文学研究資料館客員教授)

青野 春水(徳島文理大学教授)

松永 靖夫(元新潟県立三条高校教諭)  
深谷 克己(早稲田大学教授)  
渡辺 尚志(一橋大学助教授)  
高澤 裕一(金沢大学教授)  
舟橋 明宏(千葉県史料研究財団調

査協力員)

安藤 正人(国文学研究資料館助教授)  
森 安彦(国文学研究資料館教授)  
高木 俊輔(国文学研究資料館教授)  
丑木 幸男(国文学研究資料館教授)  
山田 哲好(国文学研究資料館助教授)  
渡辺 浩一(国文学研究資料館助手)

### 夏季大学院セミナー受講生募集

当館では、国文学と史学を専攻する大学院生(修士課程・博士課程)を対象として、毎夏「原典講読セミナー」を開催している。

これは、前ページに記された一年をサイクルとする大学院生受入とは別の、ごく短期間のセミナーである。

日程はまだ決定されていないが、今年も八月下旬に開講の予定である。募集人員は約十五名、応募者が多数の場合は、当館で選考する。受講料無料(講義資料実費徴集)。講義の内容については、従来より当館教官が、もつとも研究をふかめているテーマについて行われている。高度で密度の濃いものとの評価を受けており、「セミナー原典を読む」シリーズとして、平凡社より順次刊行されている。

本年度の担当者は未決定である

が、浅田徹助教授(中古・中世和歌)、安藤正人助教授(近世史・記録史科学)、上野洋三教授(近世和歌・俳諧)、谷川恵一教授(近代文学)、松村雄二教授(中世和歌)などが候補である。

このセミナーは平成五年より開催されており、今夏は六回目となる。国文学・日本史学を専攻する若い研究者にとつて、所属大学以外の教官の講義を聴講できる希少な機会として、好評を得てきている。また、他大学の院生との学問的交流の場ともなっている。

研究の視野の拡大と、深化をはかる貴重な機会として、ふるって応募していただきたい。

セミナーについての照会先は、国文学研究資料館共同利用係(〇三―三七八五―七三―内線二一〇・二一一)

新収資料紹介④

外村久江氏旧蔵「早歌資料」

平成九年十月、外村南都子先生(平成九年度文献資料部客員教授)より、故外村久江氏旧蔵の早歌資料等十点を御寄贈賜わった。改めて先生に深謝申し上げたい。以下、簡略ではあるが概観を紹介する。

\*「早歌二曲本」「日精徳」「狹衣袖」写本・卷子一軸。室町期写。綴じ跡・朱の状態・折り目等から、もと二七・〇種×二〇・〇種程度の冊子本形態、墨付二十一丁(本文は早歌本来の五行書)と思われる。糊離により、現在は四片に分かれている。鳥の子紙。大略、平仮名表記を使用。漢字は極端に少なく、すべて振り仮名を施す。曲頭書・垂れ鍵等、丁寧な朱墨譜を持つ。以上の特徴から、外村久江氏は本資料を早歌の稽古本と推測、紹介された(鎌倉文化の研究)。「日精徳」は「玉林苑」上巻、「狭衣袖」は「宴曲抄」下巻所収。本資料は金春家伝来の資料であったと聞く。\*「拾葉集」下・「車(部分)」「袖情」写本・列帖装。応永頃写。墨付四丁。二六・七種×一七・七種。鳥の子

紙。漢字平仮名交り。五行書。曲頭記・垂れ鍵・朱墨譜・振り仮名を施す。「源氏物語」に依る二曲を記すが、「車」は後半部分「其か」と云し言の葉……えならず染深追風)のみ。筆致は尊経閣文庫本と合致。\*「玉林苑」下 写本・列帖装一帖。応永頃写。墨付三十五丁。二六・六種×一七・五種。鳥の子紙。漢字平仮名交り。五行書。曲頭記・垂れ鍵・朱墨譜・振り仮名を施す。早歌第八の撰集。筆致は尊経閣文庫蔵「宴曲集」「拾葉集」等と合致。\*「撰要両曲卷」(断簡)・「余波」写本・一枚。室町期写。二三・五種×一七・二種。鳥の子紙。漢字平仮名交り。五行書。垂れ鍵・朱墨譜・振り仮名を施す。裏に墨書紙片「招月庵徹書記 餘波」を貼付。\*「撰要目錄卷」(断簡)写本・一枚。室町期写。二四・七種×一四・八種。鳥の子紙。裏に墨書紙片「一条院殿良慶親王 宴曲集卷」を貼付。漢字のみ。外村久江氏は紙墨・筆致から本資料を坂阿筆と推定された。この断簡に

より、「朝」「夕」「草」「上下」が明空作と判明。「年中行事」の作者「藤三品」については「広範脚」と朱の注記があり、既にこの説が伝えられていた証左となった(「早歌の研究」)。\*「宴曲抄」中巻(断簡)・「鄂律講惣礼」写本・二枚。室町期写。一枚の料紙(鳥の子紙。二五・一種×一六・〇種)が二片に切断されている。漢字平仮名交り。五行書。垂れ鍵・朱墨譜・振り仮名・濁点を施す。詞章は早歌第二の撰集「宴曲抄」中巻所収「鄂律講惣礼」の一部「秋風楽の笛の音……神に手向やせまし」に相当。鄂律講式に用いられた曲。\*「宴曲抄」中巻(断簡)・「三嶋詣」写本・一枚。室町期写。寸法二五・二種×一七・四種。鳥の子紙。漢字平仮名交り。五行書。垂れ鍵・朱墨譜・振り仮名・濁点を施す。裏に墨書紙片「冷泉為右 あらハす」を貼付。詞章は「宴曲抄」中巻所収「三嶋詣」前半の一部「あらはす……叢祠を府中に」に相当。「異説秘抄口伝巻」はこの曲について「号神遊曲可秘々々」と記す。\*「宴曲集」巻四 写本・袋綴一冊。江戸後期写。渋刷毛目文様表紙。二六・九種×一九・四種。表

紙左に打付書「宴曲集」。右下に墨書「潤亭蔵」。内題「宴曲集」。三十五丁。斐紙の薄様。每半丁五行。漢字平仮名交り。奥書「宴曲集下冷泉持為卿染筆也云々/臨写終」。早歌第一の撰集「宴曲集」の巻四のみ存。小山作之助氏旧蔵本という。「早歌全詞集」所収「宴曲集」巻四の対校本。\*「別紙追加曲」・「源氏紫明両栄花」「琵琶曲」「聖廟靈瑞書」(各部分)写本・卷子一軸。表紙は紺色地に寿文字・鳥・梅・小植等の文様(金欄)。見返しは浅葱色地に雷文(金箔)。見返し・巻末等に朱印「芙蓉堂蔵」ほかあり。表紙寸法二二・六種×一七・一種。本文料紙全長約三三四種。天地断裁。一行二十字前後。漢字平仮名交り。奥書「右一巻以頓阿法師自筆本/謄写了可秘蔵者也/安永四年乙未年八月/左衛門少志藤原常成」。【源氏物語】に依る「源氏紫明両栄花」(前半一部分欠)、琵琶の徳を称えた「琵琶曲」(末尾部分欠)、天神を賛嘆する「聖廟靈瑞書」(冒頭から「掲焉き」まで欠)の三曲。\*「岩山道堅自歌合」写本・列帖装一帖。墨付十九丁。黒色表紙に千鳥・舟文様(金欄)。見返しは麻の葉に龍の丸文様(金

箱)。寸法二四・一横×一七・六  
 種。鳥の子紙。每半丁九行。和歌  
 は一行書。漢字平仮名交り。奥書  
 に細川幽齋の名が見える。「右一  
 冊道堅法師自歌合也臨于／後柏原  
 院真跡写焉／永禄十二年夏六月十  
 八日／正五位下行左近衛権少将源  
 通勝／以右之奥書本写畢／幽齋叟  
 玄旨判」。

中世天台僧光宗の著「溪風拾葉  
 集」巻八十九「現ニハ娑婆ノ事」  
 の項は「現ニハ娑婆、東土二三尊  
 御座哉」をめぐる解釈を記載、こ  
 れは「撰要目録巻」の類話と一致  
 する。「現ル也娑婆」は早歌の異  
 名であった。また、観心三年、大  
 内弘幸は周防国仁平寺を再興、三  
 月八日を供養会日と定め、三月三  
 日に鎮守日吉山王の社頭で法楽舞  
 を執行した。「水上山興隆寺文書」  
 所収「仁平寺並今八幡宮文書」の  
 同寺供養日記によれば、当日は延  
 年の中で早歌「心」が奏された。  
 以て早歌の広範な流布を知る。因  
 みに、大内弘幸は三日後の三月六  
 日に卒し、嗣子弘世が本堂供養を  
 延期してその志を継いだ。

(文献資料部 中野真麻理)

## 新収和古書抄 平成九年

八雲御抄 版本七冊

寛永十二年刊。巻一より巻三中  
 途まで宝永四年に為家本と校合し  
 た朱注を付す。為家本(順徳院自  
 筆本の写し)は巻一・二が散佚し  
 ているのでその復原に役立つ。巻  
 一・二に為家奥書(文永五年秋八  
 月戊辰)を転記する。

八卦本 版 一帖

折本装。表紙欠(うしろ表紙の  
 み存)。内題、尾題ともに無し。  
 「国書総目録」に、「陰陽八卦之法」

「陰陽八卦之書」とする書物と同  
 じ。寛永十七年刊。八卦の占の書  
 で、諸々の挿絵が入り、後に重宝  
 記類の典拠となるほど贈炙した。  
 諸版、内容の異なる慶長十六年刊  
 本(東洋文庫蔵・岩崎。「八卦図  
 会」)、内容の等しい寛永五年刊本  
 (東北大学付属図書館蔵)、元禄版、  
 無刊記本等々諸版あり。

新撰書籍目録大全 版本三冊

いろは分け書籍目録の最も早い  
 もの。各項を更に、儒書、医書、  
 仮名、仏書の四分野に分ける。値  
 段付き。値段は上中下の下品の値  
 であると注記あり。慶長年中より

延宝年中迄刊の六千余点を収める  
 と云う。天和元年山田喜兵衛刊。

改装、外題なし。標題は扉による。  
 内題は「新增書籍目録」。中巻末  
 三丁破損あり。  
 国学者書状集

賀茂真淵、本居宣長、加藤千蔵  
 等、近世の国学者書翰二十一通。  
 内容豊富で宛所も村田春海、伴蒿  
 蹊等、著名な人物が多く、研究価  
 値が高い。同種の資料中の優品と  
 称すべきもの。弥富浜雄旧蔵。

延命子育和讃 版 一冊  
 外題「諸惡莫作、諸善奉行、延  
 命子育和讃」。半紙本。表紙、本  
 文共紙。こより仮綴。表紙共で全  
 九丁。江戸時代後期の刊。「上州  
 確井住義恬」勸導序。内容は、延  
 命子育和讃・一詠歌に、子殺し  
 (間引き)、火車に引かれる父母の  
 挿絵(全3面)を付する。

和漢俳諧集 版一冊  
 暮雨巷四世曾洛著、花央編。文  
 政十三年花央序。著者曾洛とその  
 師にあたる臥央や、暁台・士朗・  
 而后ら尾張国名古屋の俳諧師、ま  
 た江戸の確嶺や梅室、京の蒼虬・

十丈、ほかに芭蕉や蕪村らの句を  
 編した和漢俳諧の集。春・夏・  
 秋・冬・漢和之俳諧・混雑の五つ  
 の部からなる。

〔書画会引札〕

卷子仕立一軸、刊。縦十五横×  
 三百四十二横。嘉永三年三月某日、  
 甲府の画家竹村雲林(改め三陽)  
 が在郷の文人を集め時宗一蓮寺に  
 開いた改号記念書画会の案内状で  
 ある。開催にあたって協賛を求め  
 られる「補助」や「会幹」は、千  
 六百三十人も名を連ねており、幕  
 末甲州の文人名鑑として読むこと  
 もできる。会運営の具体相を詳述  
 するなど、この類の引札としては  
 白眉。装丁は近代になってからと  
 思われる。なお、山梨県立図書館  
 甲州文庫に未装丁の同種資料が二  
 点ある。

歌舞伎新報 全冊(僅少冊欠カ)

一号から一六六号まで、第二  
 巻(第二期)二号から六号まで。  
 期間は明治十二年より明治三十年  
 まで。欠冊分は、カラーコピーを  
 交えるコピー製本では補われて  
 いる。全冊を揃える機関はほとん  
 どなく、これもわずかな欠冊は残  
 るかと思われるが、もつともよく  
 揃った「歌舞伎新報」といえる。

彙報

委員会日誌  
平成9年

9月5日 原本テキストデータ

ベース監修員会議

(第二回)

10月3日 原本テキストデータ

ベース委員会(第二回)

10月14日 大学院教育協力委員会

(第二回)

10月17日 国文学文献資料調査

員北海道・東北地区

10月24日 国文学文献資料調査

員近畿地区会議

10月30日 図書資料委員会(第

二回)

11月13日 国際日本文学研究集

会委員会(第二回)

12月15日 国際日本文学研究集

会委員会(第三回)

12月19日 共同研究委員会(第

二回)

平成10年

1月9日 情報システム委員会

1月20日 大学院教育協力委員

会(第三回)

1月22日 将来構想委員会(第

三回)

1月27日 共同研究委員会(第

三回)

1月30日 原本テキストデータ

ベース委員会(第三回)

2月10日 国文学文献資料収集

計画委員会(第二回)

2月27日 外部評価委員会

運営協議会の開催について

本年度第二回運営協議会が平

成九年十一月六日(木)に開催さ

れ、教官人事、大学の教員等の任

期制、管理運営の概況について協

議が行われた。

本年度第三回運営協議会が平

成十年一月二十三日(金)に開催

され、教官人事について協議が行

われた。

外国出張

武井 協三

渡航先 連合王国

ハンガリー共和国

第二回関西研究集会

及び第八回ヨーロッパ

パ日本学会出席

平成9年8月17日

平成9年9月1日

安永 尚志

渡航先 オーストリア共和国

ハンガリー共和国

デジタル資料館シス

テム、電子的協調作

業方法に関する調査

研究及びヨーロッパ

日本学会出席

平成9年8月23日

平成9年9月1日

山崎 誠

渡航先 フランス共和国

フランス文学・フランス

文学交流史の研究

平成9年8月25日

平成9年9月2日

丑木 幸男

大友 一雄

渡辺 浩一

渡航先 オランダ王国

ベルギー王国

ドイツ連邦共和国

在欧日本史料の所在

と現状に関する調査

平成9年9月15日

平成9年9月29日

松村 雄二

渡航先 アメリカ合衆国

幕末・明治期の国文

学文献に関する調査

研究及び中西部日本

文学研究集会参加

平成9年10月19日

平成9年11月2日

鈴江 英一

山田 哲好

安藤 正人

渡航先 オランダ王国

フランス共和国

在欧日本史料の調査

・研究

平成9年10月19日

平成9年11月2日

山崎 誠

落合 博志

浅田 徹

和田 恭幸

渡航先 ドイツ連邦共和国

スイス連邦

イタリア共和国

スイスを含むドイツ

語圏及び北部イタリ

アの日本文学資料調

査

平成9年11月11日

平成9年11月25日

岡 雅彦

渡航先 フランス共和国

コレージュ・ド・フ

ランス日本学高等研

究所における講義及

び国文学資料調査

平成9年11月12日

平成9年12月11日

岡 雅彦

鈴木 淳

ロバート・キャンベル

辻本 裕成

渡航先 ドイツ連邦共和国

安藤 正人	期 間 平成9年10月29日	目 的 ム出席	渡航先 アメリカ合衆国 国際近松シンポジウ ム出席
武井 協三	期 間 平成9年10月30日	目 的 集會参加	渡航先 アメリカ合衆国 山形大学教育学部助 教授
渡井 協三	期 間 平成9年10月19日	目 的 集會参加	渡航先 アメリカ合衆国 山形大学教育学部助 教授
渡井 協三	期 間 平成9年10月1日	目 的 集會参加	渡航先 アメリカ合衆国 山形大学教育学部助 教授
鈴木 淳	期 間 平成10年2月20日	目 的 海外研修旅行	渡航先 ロバート・キャンベル 兼任
渡井 協三	期 間 平成10年2月14日	目 的 調査及び研究	渡航先 フランス共和国 コレージュ・ド・フ ランス日本学高等研 究所と当館との学術 協定に基づく、在フ ランス日本古典籍資 料の調査及び研究
松野 陽一	期 間 平成10年1月31日	目 的 研究	渡航先 フランス共和国 コレージュ・ド・フ ランス日本学高等研 究所と当館との学術 協定に基づく、在フ ランス日本古典籍資 料の調査及び研究
渡井 協三	期 間 平成10年3月3日	目 的 存総合調査	渡航先 インドネシア共和国 マレーシア
渡井 協三	期 間 平成10年3月8日	目 的 人事異動	渡航先 インドネシア共和国 マレーシア
渡井 協三	期 間 平成9年9月	目 的 人事異動	渡航先 インドネシア共和国 マレーシア
渡井 協三	期 間 平成9年9月16日	目 的 人事異動	渡航先 インドネシア共和国 マレーシア



文庫紹介②  
京都国立博物館

京都国立博物館所蔵の和古書の中に、その前身である京都博物館時代(明治8-24年)に収集された四二四点がある。本蔵書は、絵巻等、図書以外に分類される資料を除いたもので、大半は和古書の範疇であるが、漢籍および明治本を若干含む。そのうち一部の善本は著名であるが、蔵書の全貌が明らかでなかったところ、京博が百周年事業を進める傍ら、改めてその整理が計られたものである。内容的には、その蔵書印から推して、元清華家である花山院、大炊御門の両家から流出したものが中心をなしており、そのため公家日記、部類記および文学書等に特色がみられる。また博物館に必要な図書を備えるという観点から収書が計られたためか、有職故実、茶道、刀剣、絵図等の分野も充実していると言つてよい。

蔵書中、特記すべきものとして、伝後嵯峨院筆「和漢朗詠集」、伝山崎宗鑑筆の三代和歌集(後撰・拾遺・詞花)、飛鳥井雅縁・忠雄僧正阿筆「新古今和歌集」、天正二十年奥書の「保元物語」

「平治物語」等がまず挙げられる。また天正三年校合奥書の「河海抄」や明和元年校合奥書の「眠江入楚」下冷泉家伝来の延宝四年写「伊勢物語」、元和六年写の「性靈集文筆私鈔」等も注意すべきもの。その他、室町後期写の随筆「擲鴨曉筆抄」、文正元年写の「大嘗会仮名記」、永禄五年写の「職原抄」があり、さらにいずれも近世の書写であるが、「中右記」「明月記」をはじめとする約五〇点程の公家日記は、由緒正しい伝来上からも貴重な資料群といつてよからう。また、社寺や名所の絵図摺物もまとまった数を存しており、興味深いものがある。

当資料館では、右の京博蔵和古書中の文学書約四〇点につき、平成十、十一年度に調査、収集を進める予定である。書目の概要については、京博学芸課の若杉準治氏が中心に編集された「京都国立博物館百年史」(平成九年刊)に「京都博物館旧蔵和古書目録」としてまとめられているので参照願いたい。

(文献資料部 鈴木淳)

# 第21回国際日本文学研究集会報告

本年度の国際日本文学研究集会は、十一月十三日（木）十四日（金）に、国文学研究資料館で開催された。

今回は二日目に「境界と日本文学—ジャンルの交流—」というテーマを設け、外国人約三〇名、日本人約六〇名の参加者を得て開催された。参加者の数は昨年を若干下まわったが、テーマにたいする熱気のある討議が展開された。

ハルトムート・ロータモンド教授、今西祐一郎教授の講演、ロンドン大学より招待したタイムン・スクリーチ助教授の研究発表は、和歌と説話、本文と注釈と絵、浮世絵と科学・文芸の境界を視点に入れたもので、いずれも重層的な見方が、問題の新しい側面を照らし出すことを提示されるものであった。

また研究発表では、映像から小説を考えるという新しい視点の導入、中国人の発表者から在日韓国人文学を考察するなど、興味深い研究発表が並んだ。

プログラムは次のとおりである。

第一日目  
研究発表

○保胤「池亭記」の隠棲思想

劉魯平（新潟大学大学院）

○日・韓における伝承のありかた

—「さよひめ」説話と「堤上説話」—

金京欄（早稲田大学大学院）

○泉鏡花「磔の一心」論—自筆原稿との比較を通して—

魯惠卿（筑波大学大学院）

○「二世」から見る、戦前における台湾文学—周金波、河合三良を中心に—

唐瓊瑜（武蔵大学大学院）

○「吉里吉里人」における国家形成と主体性の喪失

クリストファー・ロビンス（インディアナ大学大学院）

○越境する文学—方法としての由

照—

顧偉良（弘前学院大学助教授）

第二日目  
研究発表

○谷崎潤一郎「陰翳礼讃」における大衆文化の表象

中根隆行（筑波大学大学院）

○「風の又三郎」における（重ね書き）—昭和十五年日活映画の受容に着目して—

米村みゆき（名古屋大学大学院）

○美術史と科学史、最後の境界を越える

タイモン・スクリーチ

（ロンドン大学助教授）

公開講演

○本文・注釈・絵

今西祐一郎（九州大学教授）

○和歌から説話を見る—唱導史の観点を中心にして—

ハルトムート・ロータモンド

（フランス国立高等研究院教授）

## セミナー原典を読む

本田康雄著「浮世風呂・浮世床—世間話の文学—」。新井榮蔵著「書の秘伝—入木道の古典を読む—」。松野陽一著「千載集—勅撰和歌集はどう編まれたか—」。森安彦著「古文書が語る近世村人の一生」。松村雄二著「百人一首—定家とカルタの文学史—」。丑木幸男著「蚕の村の洋行日記—上州蚕種業者・明治初年の欧羅巴体験—」。岡雅彦著「一休ばなし—とんち小僧の来歴—」。安永尚志著「文科系のための情報検索入門—パソコンで「漱石」にたどりつく—」。立川美彦著「京都学の古典—「雍州府志」」。中村康夫著「国文学電子書齋術—コンピュータに何をさせるか—」。

平凡社刊、定価は千六百円〜二千円で市販されている。

**国文学研究資料館影印叢書**

当館所蔵の貴重書より、「好色一代男」「金春禅竹自筆能楽伝書」を、汲古書院より刊行している。

購入ご希望の方は汲古書院（〇三—三三六五—九七六四）まで。



教授



利用者へのお知らせ

◆所蔵目録刊行のご案内

このたび「マイクログ資料目録」「和古書目録」の最新版が刊行されましたのでご紹介いたします。

【国文学研究資料館蔵マイクログ資料目録一九九七年】(第21冊)

収集したマイクログ資料のうち、平成九年度に整理が終了した三三三所蔵者(文庫)分、五、〇七九点をとりまとめ冊子体にしたものです。収録所蔵者名、文庫番号は次のとおりです。今回新たに収録された三所蔵者には\*印を付けました。

- 文庫No 所蔵者
- 11 京都大学文学部(頼原文庫)
- 20 宮内庁書陵部
- 26 酒田市立光丘文庫
- 33 東洋文庫
- 48 名古屋市蓬左文庫
- 49 岩国徴古館
- 55 陽明文庫
- 88 東京芸術大学附属図書館
- 89 名古屋市鶴舞中央図書館
- 93 上田市立図書館(花春文庫)
- 99 高知県立図書館(山内文庫)
- 222 三原市立図書館
- 224 熊本大学附属図書館(北岡文庫)

229 鶴岡市郷土資料館

238 法政大学能楽研究所(鴻山文庫)

244 大阪女子大学附属図書館

258 臼杵市立臼杵図書館

272 弘前市立図書館

296 尊経閣文庫

298 茨城県立歴史館

303 金沢市立玉川図書館(藤本文庫)

304 福井市立図書館(松平文庫)

316 蘆庵文庫

318 夢望庵文庫

319 白鹿記念酒造博物館(西宮市 笹部桜コレクション)

320 東京芸術大学附属図書館(脇 本文庫)

321 鎌田共済会図書館

325 石川県立図書館(李花亭文庫)

331 \*山梨県立図書館

333 \*仙台市民図書館

336 \*岩手県立図書館

413 初瀬川文庫

41 祐徳稲荷神社(中川文庫)

【国文学研究資料館蔵和古書目録一九七二―一九九七】

この目録は、今まで刊行した

「和古書目録一九七二―一九八六」

「同増加4(一九八七)」同増加

5(一九九二)「同増加6(一九九五)」の四冊分を累積し、その後二年間の増加分二〇〇余点を加えた和古書(写本・版本)約七、五〇〇点を収録したものです。

◆「マイクログ資料目録縮刷版」の市販について

【国文学研究資料館蔵マイクログ資料目録】は、発行部数に限りがあり、一部の機関にしか配布できないのが現状です。そこで、縮刷版を別途刊行し市販しています。第二〇冊目の一九九六年版が、二月に発行されました。(笠間書院刊、定価五、八〇〇円)

◆CD-ROM等が閲覧できます

- ・和泉式部日記(同朋舎出版)
- ・かげろう日記(同朋舎出版)
- ・八代集(岩波書店)
- ・新編国歌大観(角川書店)
- ・学術雑誌総合目録(丸善)
- ・風俗画報(ゆまに書房)

◆利用案内

◆利用資格

学術研究のために当館の資料を必要とし、かつ、次のいづれかに該当する者。

- 一、学校の教員及び調査研究機関の研究員
- 二、大学及び大学院の学生
- 三、その他館長が適当と認める者

閲覧時間  
九時～十七時

資料請求受付時間  
九時半～十二時、十三時～十六時半

文献複写受付時間  
九時半～十五時半

休室日  
日曜日、土曜日、祝日、振替休日、毎月末日(日、土の場合は直前の金曜日)、四月末～五月上旬五日間、十二月二十七日～一月五日、三月二十五日～三月三十一日、その他

来館できない場合の利用方法  
所属大学の図書館等を通して申し込みは文献複写及び貸出サービス(資料は限定されます)が受けられます。また、個人が郵送で文献複写の申し込みをすることができま。詳細は情報サービス係にお問い合わせください。

平成10年度

## 春季学会

①事務局 ②学会開催日 ③会場

## 解釈学会

①〒170 豊島区北大塚3-29-2 教育出版センター内 03-5394-1203  
②8月25日 ③神奈川県立近代文学館

## 歌舞伎学会

①〒169-8050 新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学演劇博物館内 03-3203-4141内71-5218 ②7月20日  
③江戸東京博物館

## 訓点語学会

①〒155 世田谷区代沢1-20-10 ②5月29日 ③白百合女子大学

## 芸能史研究会

①〒602 京都市上京区河原町通荒神口下る上生州町221キトウビル303号 075-251-2371 ②6月7日  
③京大会館

## 国語学会

①〒113 文京区本郷7-3-1 東京大学文学部国語研究室内 03-3812-2111 ①事務取扱 〒113文京区本郷1-13-7 日吉ハイツ404 03-5802-0615 ②5月30・31日 ③白百合女子大学

## 古事記学会

①〒150-8440 渋谷区東4-10-28 國學院大學文学部日本文学第1研究室内 03-5466-0215 ②6月20～22日 ③中京大学

## 上代文学会

①〒180 武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 成蹊大学文学部遠藤宏研究室内 0422-37-3647 ②5月16～18日  
③常葉学園短期大学

## 昭和文学会

①〒101-0064 千代田区猿楽町2-2-5 笠間書院内 03-3295-1331  
②6月13日 ③立正大学

## 説話・伝承学会

①〒562 大阪府箕面市栗生間谷東8-1-1 大阪外国語大学奥西峻介研究室内 ②5月9・10日 ③大谷大学

## 説話文学会

①〒305-8571 つくば市天王台1-1-1 筑波大学文芸言語学系稲垣研究室 0298-53-4136 ②6月27・28日 ③日本女子大学

## 全国大学国語教育学会

①〒739-8523 東広島市鏡山1-1-2 広島大学教育学部国語教育学研究室内 0824-24-6790 ②8月3・4日 ③筑波大学附属小学校

## 全国大学国語国文学会

①〒101-0064 千代田区猿楽町2-2-6 畑山第1ビル(株)おうふう気付 03-3294-0857 ②6月6・7日

## 中古文学会

①〒175-8571 板橋区高島平1-9-1 大東文化大学文学部日本文学研究室内 03-3935-1113内3128 ②5月9・10日 ③立教大学

## 中世文学会

①〒102-8336 千代田区三番町6-16 二松学舎大学大学院文学研究科国文学専攻松本寧至研究室 03-3261-7406 ②5月30～6月1日 ③立正大学

## 日本演劇学会

①〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1 玉川大学文学部芸術学科演劇研究室内 FAX0427-39-8092 ②5月30・31日 ③玉川大学

## 日本歌謡学会

①〒150 渋谷区東4-10-28 國學院大學文学部日本文学第七研究室内 03-5466-0221 ②5月23・24日  
③高岡市万葉歴史館

## 日本近世文学会

①〒191-8510 日野市大坂上4-1-1 実践女子大学文学部国文学科研究室内 042-585-0316 ②6月20・21日 ③戸板女子短期大学

## 日本口承文芸学会

①〒150 渋谷区東4-10-28 國學院大學文学部伝承文学研究室内 03-5466-0224 ②6月6・7日 ③帝京大学

## 日本国語教育学会

①〒112-0012 文京区大塚3-29-1

日本教育研究連合会第三研究室内 03-3941-3420 ②8月1・2日 ③国立教育会館虎の門ホール  
社団法人 日本語教育学会

①〒101-0065 千代田区西神田2-4-1 (財)東方学会新館2F 03-3262-4291 ②5月23・24日 ③東京学芸大学

## 日本社会文学会

①〒169-50 新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学教育学部杉野研究室 03-3203-4141

## 日本比較文学会

〒411 静岡県三島市文教町2日本大学国際関係学部内秋山正幸研究室 0559-80-0777 ②6月13・14日 ③大阪女子大学

## 日本文学協会

①〒170 豊島区南大塚2-17-10 03-3941-2740 ②7月5日 ③近畿大学

## 日本文学風土学会

①〒359-1112 所沢市泉町1789 秋草学園短期大学国文科研究室 0429-25-1111 ②6月20・21日  
③専修大学

## 日本文芸研究会

①〒980-8576 仙台市青葉区川内 東北大学文学部国文学研究室内 022-217-5957 ②6月13・14日  
③東北大学

## 日本文藝論学会

①〒110-0004 台東区下谷1-5-34 (株)三修社内 03-3842-1711 ②6月12・13日 ③東洋大学

## 日本方言研究会

①〒192-03 八王子市南大沢1-1 東京都立大学国語研究室内 日本方言研究会幹事 0426-77-2135  
①〒115-8620 北区西ヶ丘3-9-14 国立国語研究所気付日本方言研究会幹事 03-5993-7630 ②5月29日  
③白百合女子大学

## 表現学会

①〒101-0064 千代田区猿楽町2-2-6 畑山第一ビル6F 03-3294-2171 ②6月6・7日 ③大妻女子大学

## 仏教文学会

〒604京都市中京区西ノ京壺ノ内町8-1 花園大学文学部国文学研究室内 075-811-5181 ②6月6・7日 ③國土館大学

## 美夫君志会

①〒466名古屋市中昭和区八事本町101-2 中京大学文学部国文学研究室内 052-832-2151 ②7月18～20日 ③中京大学(60周年記念大会)

国文学研究資料館報 第五〇号  
平成十年三月発行  
編集・発行者

国文学研究資料館

東京都品川区豊町一六一〇

郵便番号 一四二八五八五

電話 (三七八五) 七三一一

FAX (三七八五) 七〇五一

印刷 株式会社三協社